

令和6年度（2024年度）山口大学教職課程自己点検・評価

1. はじめに

教職課程の自己点検・評価は、教育職員免許法施行規則第22条の8の規定に基づき義務付けられている。これを受けて、本学では、以下に示す「山口大学における教育(教職課程)の内部質保証に関する実施要領」(資料1)を定め、全学体制で自己点検・評価を行うことにしている。具体的には、別途定めた「自己点検・評価シート」により、教職課程を有する各学部等及び教職センター長が自己点検・評価を実施し、それらの結果を山口大学教職センター会議及び山口大学教職課程委員会(以下、「教職センター会議等」という。)における確認を経て、担当副学長と情報を共有しながら、山口大学の教職課程(資料2)の質の向上及び改善を図るものとしている。

本報告書は、上記要領に基づき実施した令和6年度の自己点検・評価の結果を教職センターが取りまとめたものである。

【教育職員免許法施行規則第22条の8】

認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教育研究実施組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2. 自己点検・評価の項目の概要

次の(1)～(8)を自己点検・評価の項目(大項目)として設定した。また、それぞれ大項目の中に小項目を設定した自己点検・評価シートを用いて各学部等及び教職センターで点検・評価を行い、その後、全学の教職課程として「令和6年度(2024年度)山口大学教職課程自己点検評価シート」を取りまとめた。

- (1) 教育理念・学修目標 (小項目 No. 1-1)
- (2) 授業科目・教職課程の編成及び実施 (小項目 No. 2-1～2-8)
- (3) 学修成果の把握・可視化の状況 (小項目 No. 3-1～3-3)
- (4) 教職員組織の状況 (小項目 No. 4-1～4-5)
- (5) 情報公表の状況 (小項目 No. 5-1～5-3)
- (6) 教職指導(学生の受け入れ、学生支援)の状況 (小項目 No. 6-1～6-3)
- (7) 関係機関等との連携の状況 (小項目 No. 7-1～7-3)
- (8) その他必要と認められる事項(令和6年度も設定を要しなかった)

3. 総評

「山口大学における教育（教職課程）の内部質保証に関する実施要領」に基づき、教職課程における教育理念・学修目標、授業科目・教職課程の編成及び実施、学修成果の把握・可視化の状況、教職員組織の状況、情報公表の状況、教職指導の状況、関係機関等との連携の状況等について、教職課程を有する教育課程責任者（各学部・研究科長）、教職センター長及び教職課程委員会委員長と連携の上、自己点検・評価を実施し、令和7年6月開催の教職センター会議および教職課程委員会において確認された後、推進責任者（教育学生担当副学長）から自己点検・評価責任者（大学評価担当副学長）へ報告され、全ての評価項目において適切に自己点検・評価を実施していることを確認した。また、全評価項目において、本学の教職課程は概ね適切に運営されていることを確認した。

4. 取組状況

令和6年度の取り組みのうち、主な課題の改善状況や優れた成果は以下の通りである。

① 教職課程に係る学部内委員会の規則策定と組織の整備について

令和5年度の点検において、一般学部の一部で教職課程に係る学部内委員会が十分に整備されていない状況にあることが課題として指摘されていた。この課題に対し、令和6年度までに該当する学部において委員会規則の策定・整備を進めた。これにより、組織の再編も可能となり、全学的な教職課程委員会と各学部内の運営組織が有機的に連動する体制が整い、学部内における教職課程の質保証や教育環境の改善を、より迅速かつ組織的に実施できる基盤が構築された。

② 山口県教育委員会や地域学校との連携による早期の教職体験の充実

地域や学校現場のニーズに応える教員養成を目指し、山口県教育委員会が実施する「教員をめざす学生の学校体験制度」や教育学部の「ちゃぶ台プログラム」が積極的に推進されている。また、工学部では、山口県内工業高校からの要望を受け、新入生向けに県教育委員会から講師を招いた「教員免許（工業）取得に関する説明会」が開催された。これらを通じて、一般学部も含めた全学の学生が早期から教職への意識を高め、現場の実践に触れる多様な機会の確保が定着しつつある。

一方、改善すべき点及び改善案は、以下の通りである。

③ 成績評価における共通理解の深化と観点別到達目標の更なる明示

現在、教職課程を構成する科目のシラバスにおいて、成績評価の方法や配点、観点別の到達目標との関係性は概ね示されている。しかし、一般学部等の一部科目においては、教職課程コアカリキュラムや学修目標に照らした成績評価基準の客観性や、複数の担当教員間における厳格な共通理解の構築において、まだ点検の余地が残されている。教職センターからシラバス点検時のフィードバックを強化するとともに、教職担当教員を対象としたFD活動（ファカルティ・ディベロップメント）を定期的を実施する。客観的な成績評価基準やルーブリックの共有を検討することで、教職課程全体の学修成果の可視化と評価の質保証をより確実なものとする。

以上、本学の教職課程に関しては、教職課程委員会を中心にしつつ、教職センター、教育学部、一般学部において、質の向上に取り組んできている。現在、中央教育審議会においては、特に教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループを中心に、教員の養成・採用・研修の一体的な改革のための協議を進めているところである。本学においても、審議会の協議動向を注視しつつ、教職課程の質の向上に向けて確認と改善に努めていく必要がある。

資料1 山口大学における教育(教職課程)の内部質保証に関する実施要領

山口大学における教育(教職課程)の内部質保証に関する実施要領

令和4年1月21日 副学長(教育学生担当) 裁定

令和4年6月21日 一部改正

第1 目的

この実施要領は、山口大学における教育の内部質保証に関する要綱(以下「要綱」という。)第4条第3項に基づき、本学の教職課程の内部質保証の自己点検・評価に関する事項を定めることを目的とする。

第2 内部質保証の自己点検・評価の実施

- (1) 副学長(教育学生担当)は、教職課程を有する教育課程責任者、教職センター長及び教職課程委員会委員長と連携し、教職課程の内部質保証の自己点検・評価を実施し、山口大学教職センター会議及び山口大学教職課程委員会(以下、「教職センター会議等」という。)において確認する。
- (2) 副学長(教育学生担当)は、前項で確認した内部質保証の自己点検・評価について、自己点検・評価責任者に報告する。

第3 自己点検・評価の項目及び手順

自己点検・評価の項目は、次のとおりとし、別紙自己点検・評価シートにより評価を行う。

- (1) 教育理念・学修目標
- (2) 授業科目・教職課程の編成及び実施
- (3) 学修成果の把握・可視化の状況
- (4) 教職員組織の状況
- (5) 情報公表の状況
- (6) 教職指導(学生の受け入れ、学生支援)の状況
- (7) 関係機関等との連携の状況
- (8) その他必要と認められる事項

第4 自己点検・評価の実施時期

自己点検・評価は、原則として毎年度実施する。ただし、必要に応じて実施時期を変更できるものとする。

第5 他の評価結果等の活用

- (1) 自己点検・評価の実施にあたっては、国立大学法人評価や機関別認証評価等の第三者評価の結果を活用する。

資料2 山口大学における教職課程認定

学部（一種免許状）

| 学部 | 学科・課程 | 取得できる免許状 | |
|------------|------------|----------|--------------------------------------|
| | | 種類 | 教科等 |
| 人文学部 | 人文学科 | 中一種免 | 国語、社会、英語 |
| | | 高一種免 | 国語、地理歴史、公民、英語 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 幼一種免 | — |
| | | 小一種免 | — |
| | | 中一種免 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語 |
| | | 高一種免 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、情報、英語 |
| | | 特支一種免 | 知的障害者、肢体不自由者、病弱者 |
| 経済学部 | 経済学科 | 高一種免 | 公民 |
| | 経営学科 | 高一種免 | 商業 |
| 理学部 | 数理科学科 | 中一種免 | 数学 |
| | | 高一種免 | 数学 |
| | 物理・情報科学科 | 中一種免 | 理科 |
| | | 高一種免 | 理科、情報 |
| | 化学科 | 中一種免 | 理科 |
| | | 高一種免 | 理科 |
| | 生物学科 | 中一種免 | 理科 |
| | | 高一種免 | 理科 |
| 地球圏システム科学科 | 中一種免 | 理科 | |
| | 高一種免 | 理科 | |
| 工学部 | 機械工学科 | 高一種免 | 工業 |
| | 社会建設工学科 | 高一種免 | 工業 |
| | 応用化学科 | 高一種免 | 工業 |
| | 電気電子工学科 | 高一種免 | 工業 |
| | 知能情報工学科 | 高一種免 | 情報 |
| | 循環環境工学科 | 高一種免 | 工業 |
| 農学部 | 生物資源環境科学科 | 高一種免 | 農業 |

大学院（専修免許状）

| 研究科 | 専攻 | 取得できる免許状 | |
|---------|--------------|----------|--|
| | | 種類 | 教科等 |
| 人文科学研究科 | 人文科学専攻 | 中専免 | 国語、社会、英語 |
| | | 高専免 | 国語、地理歴史、公民、英語 |
| 教育学研究科 | 学校臨床心理学専攻 | 幼専免 | — |
| | | 小専免 | — |
| | | 中専免 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語 |
| | | 高専免 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、情報、英語 |
| | 教職実践高度化専攻 | 幼専免 | — |
| | | 小専免 | — |
| | | 中専免 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教 |
| | | 高専免 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教 |
| | | 特支専免 | 知的障害者、肢体不自由者、病弱者 |
| | | 養教専免 | — |
| 栄教専免 | — | | |
| 経済学研究科 | 経済学専攻 | 高専免 | 公民 |
| | 企業経営専攻 | 高専免 | 商業 |
| 創成科学研究科 | 基盤科学系専攻 | 中専免 | 数学、理科 |
| | | 高専免 | 数学、理科 |
| | 地球圏生命物質科学系専攻 | 中専免 | 理科 |
| | | 高専免 | 理科 |
| | 農学系専攻 | 高専免 | 農業 |